

第4回仙台市健やかな体の育成プラン検討委員会議事録

- 1 日 時 令和6年2月1日(木)
午後6時00分開会
午後7時40分閉会
- 2 場 所 仙台市役所 上杉分庁舎12階 教育局第1会議室
- 3 出席委員 黒川修行委員長、菅野拓生副委員長、赤間早苗委員、太田博文委員、齋藤ミユキ委員、
佐藤直美委員、丹野久美子委員、平田政嗣委員、藤原幾磨委員、三浦方也委員、宮川季士委員
- 4 事務局職員 渋谷総務企画部長、加藤健康教育課長、
五十嵐健康教育課主幹兼主任指導主事、佐々木保健体育係長、丸山給食事業係長、
菅原指導主事、佐藤指導主事、門脇指導主事、船山指導主事、近藤指導主事

5 配付資料

- 資料1 「仙台市健やかな体の育成プラン2024」中間案に寄せられた意見の概要と本市教育委員会の考え方について
- 資料2 「仙台市健やかな体の育成プラン2024」最終案(概要版)
- 資料3 「仙台市健やかな体の育成プラン2024」最終案

6 会議の次第

- 1 開会
- 2 議事
- 3 閉会

7 議事の概要

(1)「仙台市健やかな体の育成プラン2024」最終案について

- 委員長 事務局よりパブリックコメントの結果とこれに対する対応について説明願いたい。
- 事務局 -資料1に基づき説明-
- 委員長 事務局からの説明内容に質問はないか。
(質問なし)
- 委員長 続いて、事務局より「仙台市健やかな体の育成プラン2024」最終案について説明願いたい。事務局からの説明後、各委員より今回の検討委員会に携わられた感想、今後の本プランに期待すること、今後のご自身の関わりの中で意識されたいこと等についてご意見いただきたい。
- 事務局 -資料2、資料3に基づき説明-
- 委員長 事務局からの説明を受けて、名簿順にご意見願いたい。
- 赤間委員 前回の検討委員会資料と比較すると、「第4章 本プランの基本的な方向性」の「7 発達段階に応じて定着させたい具体的な姿」に新たに幼児期の枠が追加されており、小学校に勤める立場として、小学校と幼稚園・保育園との繋がりを深める重要性が示されたように感じた。幼児期に関わる全ての方に本プランを知ってもらいたいと思った。また、中学校3年生から高等学校3年生までは、将来を見据えた目標となっており、小学校6年間で土台を作ることができるよう、地道に着実に指導していきたい。
- ICT活用が進む昨今、子供たちの様子を見てみると、前かがみに座り、近距離で物を見ている。背筋を伸ばして姿勢を維持することが難しい子供が多くなっているように思う。「第5章 今後5年間に推進する施策と具体的な取組」の「3 関連事業一覧」のうち、「ICT活用における健康面への配慮」に示されている文部科学省のガイドブック等を参考にしながら、望ましいICT活用のあり方や生活習慣について指導していきたい。
- 太田委員 丁寧にまとめられており、見ごたえのある最終案になっていた。
- 「第5章 今後5年間に推進する施策と具体的な取組」の「2 主要な取組のねらい・実施内容・実施計画」中に記載されている給食試食会について、今年度本校でも保護者を招いて実施した。栄養教諭から中学生に必要な栄養などについて講話をしてもらったところ、大変好評であり、継

続してほしいという声が上がっている。保護者に食育を意識してもらうために、学校ができる取組であると実感した。また、養護教諭と共同で、健康的な生活習慣について保健の授業を行ったところ、「すすくシート」をきちんと提出する生徒が増え、内容の質も上がっていた。授業を通じて、子供たちの生活習慣への意識が変わったように感じた。

これらの実績を受けて、学校としてできることを少しずつ実践していく中で、徐々に成果が出てくるものと思う。今後も、地域や保護者と連携し、子供たちの健やかな体の育成に携わっていききたい。

齋藤委員

検討委員会に参加し、新たな気付きを得ることができた。また、パブリックコメントを通じて、市民の方々が、子供たちの健康について関心を持っていることが分かった。

栄養教諭として、子供たちがおいしいと思えるような給食を作り、食事に興味・関心を持つことができるようにしていきたい。また、より多くの教員がプランを知り、できるところから実践していければ良いと思う。

佐藤委員

検討委員会を通して、普段の生活では得られない情報を得ることができ、子供たちへの理解が深まったように思う。

「第4章 本プランの基本的な方向性」の「7 発達段階に応じて定着させたい具体的な姿」について、子供たちがどこを目指していくべきか明記されており、とても分かりやすい資料だと思った。子育ては先が長く、分からないことが多いが、この資料から子供との関わり方に見通しを持つことができた。

丹野委員

検討委員会で様々な委員の方と意見交換を行うことができ、大変有意義な時間だった。

仙台市は、どのライフステージにおいても健康課題が山積している。子供や保護者、学校教育に携わる方々が、食習慣・運動習慣・生活習慣が全てつながっていることを十分に意識し、着手しやすいところから取り組み始めることで、悪循環を断ち切ることができるのではないかと。

また、「第5章 今後5年間に推進する施策と具体的な取組」の「2 主要な取組のねらい・実施内容・実施計画」のうち、「給食試食会や親子食育講座、外部講師による調理実習等の実施」のねらいにおいて、子供たちの意見を踏まえ「食を通じた家庭や学校等でのコミュニケーションの促進」や「自分で作って食べるという調理体験」といった一部文言が追加されており、より具体的に分かりやすくなっていた。子供の意見を聞き、取組に反映させることは、非常に重要だと思う。一方で、家庭や地域との連携が難しいと思われるため、本プランを広く周知し、教育が学校だけの責任ではなく、多くの時間を過ごす家庭や地域でも十分に担われるような社会が理想だと考える。

平田委員

次期プランの策定に携わる中で、様々な分野の方からご意見を頂戴し、とても勉強になった。

丹野委員からもあったように、仙台市は虫歯や歯周病をはじめとした健康課題が非常に多い。学齢期より前から健康を身に付ける習慣を意識したり、生き抜く力を育む教育を始めたりすることが必要であると感じた。

学校歯科医として、主に学校での健康診断に携わることとなるため、健診結果を事後指導等に生かせるようにしていきたい。また、かかりつけ医として、地域との関わり合いの中で、子供たちがよりよいライフコースを実現するための一助となれるよう、貢献していきたい。

藤原委員

今回の検討委員会は、日頃様々な疾患や肥満・糖尿病の小児を診療する中で、感じたことを伝えようという思いで参加した。

「第4章 本プランの基本的な方向性」の「1 目指す児童生徒の姿」における標語において、当初は「しっかり食べて」という表現だったが、捉え方に齟齬が生まれるかもしれないという懸念のもと、「バランスよく食べて」という表現に変わったのは嬉しかった。

先日参加した宮城県の糖尿病対策推進会議では、小児の肥満対策が挙げられ、成人の肥満や糖尿病の患者の多くは、幼少期から肥満が始まっているとのことだった。小児段階から対策を講じることが大切であり、今回新たに健やかな体の育成に係るプランを策定できたことは、非常に意義あることだと感じた。

- また、昨今の新たな課題として、メディアとの付き合い方が挙げられる。学校現場でのメディア対策は難しいかもしれないが、健全な付き合い方を教えていければよいのではないかと思う。
- 三浦委員 本検討委員会に参加し、多くのことを勉強することができ、非常に有意義だった。
- 本プランでの取組を継続的に実践することの重要性は自明のことであるが、情報の届け方に脆弱さを感じる。ためになる資料を作成することができたのだから、人目に触れず埋もれてしまうのはもったいないように思う。広く市民の方々に周知されるよう、尽力いただきたい。
- 宮川委員 学校薬剤師として学校環境の検査等に携わっているものの、教育現場について分からないことが多かったため、用語解説がつくことでより読みやすくなった。
- 「第3章 『プラン 2017』の取組状況と課題」の「3 生活習慣について」のうち、「(2) 生活習慣に係る施策の取組状況 ②充実した学校保健活動の展開」について、「学校保健委員会実施状況調査」と記載されているが、学校保健法が学校保健安全法に改正されたことに伴い、学校保健委員会ではなく学校保健安全委員会という名称に変更になったと思われるが、正しい名称を確認いただきたい。
- 事務局 多くの学校では学校保健委員会という名称で実施しているが、プランに記載するにあたり、正式名称について改めて確認する。
- 宮川委員 昨今の薬物乱用に係る問題として、麻薬や覚せい剤の使用の他に、一般薬の過量投与によるオーバードーズが挙げられる。「第5章 今後5年間に推進する施策と具体的な取組」の「2 主要な取組のねらい・実施内容・実施計画」のうち、「健康教育の充実に向けた支援（思春期保健健康教育、薬物乱用防止教室の実施支援）」に記載されている薬物乱用防止教室は、学校薬剤師が仙台市薬剤師会からの依頼を受けて学校に派遣され、子供たちに講義を行う。学校薬剤師会の副会長として、講義で使用するVTR等を作成しているが、その時代の流行や課題を捉え、適切な指導を行っていききたい。
- 副委員長 パブリックコメントをふまえて、プラン内で「遊び」と「運動」の意味合いをまとめて「運動」と表記することについて、特に問題ないと感じる。学習指導要領では、学年に応じて「運動遊び」と「運動」とを分けて表記しており、到達目標や評価基準、指導方法やねらいがそれぞれ異なっている。しかし、プラン上でひとくくりに表記したからといって、教員はそれらの違いを十分に理解しているため、学校現場で混乱を招くことはないと思う。運動の楽しさを味わい、心を豊かにし、生涯スポーツにつなげていくことが運動習慣であるという、筋の通った改定になっており、より市民の方々に浸透するのではないかと。まずは学校が、家庭や地域、関係機関に情報を発信できるように、踏み出していききたい。
- 本校では、大谷翔平選手から寄付されたグローブが配付されてから、男女問わず野球に夢中になっており、学校にあるすべてのグローブを出し切って皆で野球をしている。大人が刺激を与えたり、運動環境を整えたりすることで、子供たちが興味・関心を示すことが分かった。普段の授業や生活でも我々が子供に寄り添い、その上で寄り添い方を工夫することが大切だと感じた。
- 委員長 検討委員会に委員という立場で参加できたことは、大変貴重な機会だった。改めて子供の健康について見直すことができた。
- 環境が子供に与える影響は大きいものと思う。新型コロナウイルスの流行に伴い環境が大きく変わった昨今であったが、変動がある中で少しでも大人が環境を整えていくことで、子どもの健やかな体の育成が実現できるのではないかと。
- 事務局 宮川委員よりご指摘のあった「学校保健委員会」の正式な名称について、取り急ぎ「学校保健安全法」及び「学校保健安全法施行規則」を確認したところ、法的な定義の名称は明示されていない。また、他自治体での取り扱いを見ても、表現の仕方は様々である。ついては、文部科学省の最新の通知等を踏まえたうえで、場合によっては文言の修正等を図る予定である。

8 その他

- 委員長 本日の議事は以上で終了とさせていただきます。今回確認した内容を踏まえた文言修正等については、各委員の都合等を勘案し、委員長に一任という形をとらせていただきたいが、いかがか。

(異議なし)

事務局と調整の上、最終案の確認をさせていただく。

委員の皆様には、長期間にわたり委員の職を務めていただき、感謝申し上げます。

事務局

次第「3 報告」については、文言修正等の確認があることから、後日委員長と事務局で対応する。

今後のスケジュールについては、委員長と事務局にて最終調整及び報告を行った後、3月28日に開催される定例教育委員会に付議のうえ確定となる予定である。それでは、閉会にあたり、総務企画部長より挨拶を申し上げます。

(総務企画部長挨拶)

以上で本検討委員会の一切を終了させていただく。

以上

令和6年3月2日

署名委員 仙台市健やかな体の育成プラン検討委員会委員長

黒川 修行 (印)

仙台市健やかな体の育成プラン検討委員会委員

齋藤 ミユキ (印)